

「志布志港長期構想（素案）」に対する意見表明

～南海トラフ地震の津波に備え、原木等の効果的な流失防止対策の早期実施を要望～

一般社団法人日本損害保険協会九州支部鹿児島損保会（会長：竹内 秀夫 東京海上日動火災保険株式会社鹿児島支店長）では、2024年6月13日付で公表された「志布志港長期構想（素案）」の意見募集に対し、2024年7月8日付で意見表明を行いました。

志布志港は、国内有数の農畜産地域である南九州地域を背後に有し、国内外の物流拠点、飼料供給基地として地域の産業を支える重要港湾として機能しております。当該構想は、近年の原木の取扱量の増加や道路ネットワークの進展を踏まえながら、おおむね20年から30年先の総合的な港湾空間の形成と在り方を取りまとめられたものです。

鹿児島損保会では、志布志港は、森林資源が豊富で、畜産業の盛んな南九州地域において、地域経済の発展のために、なくてはならない港湾施設であるとの認識から、未来志向の当該構想に賛同をする一方、計画期間中に、かなりの確率で発生することが推定される南海トラフ地震による津波に備え、港湾に蔵置されている原木等による港湾の背後地域への被害防止・軽減をするためのハードおよびソフトの効果的な施策の実施などにつき、次の意見表明をいたしました。

P48 建物等への津波損害は、水流圧のみではなく、浮遊物および浮力による物理的損害等によって発生するとされております。今後30年間で70～80%の確率で発生するとされる南海トラフ地震による3m～5mの津波により志布志港に蔵置されている原木が浮遊し、被害を拡大させるとの想定は蓋然性が高いことから、「原木流出による背後地域への被害低減」の課題認識は適当であると思慮いたします。

P51 志布志港は、豊富な森林資源や畜産業が盛んな南九州地域を背後に有し、木材輸出量は、2010年以降、取扱数量・輸出額ともに13年連続全国1位・全国シェアの約3割を占めており、配合飼料の原料となるトウモロコシの輸入量も全国第2位の輸入量となるなど、地域経済の発展にとってなくてはならない港湾施設であると考えております。長期構想として「地域のポテンシャルと稼ぐ力を引き出す、世界に開かれた“志”あふれる志布志港」を基本理念に取組を推進することに賛同いたします。

P71 南海トラフ地震は、この長期構想の計画期間中に発生する可能性が高いことから、課題として認識された「原木・コンテナ流出」は所与のものとして、検討だけではなく、検討によって得た効果的な流失防止対策を早期に実施する必要があると考えます。

なお、ハード対策に関して相当程度の時間や費用がかかるものと考えられるため、リスクの被害想定がされる関係者に対しては、津波警報が発令された際には、早期の避難を呼びかける周知活動などソフト対策も並行して実施することが好ましいと考えます。